

平成 26 年度第 2 回浜松創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 26 年 6 月 18 日（水）午前 10 時 00 分～午前 10 時 45 分

場 所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

出席者：根本敏行会長、寺田賢次副会長、齋藤慎五委員、杵屋英夫委員、桧森隆一委員、安形秀幸委員、海野敏夫監事、川嶋朗夫監事
（オブザーバー）

影山伸枝創造都市推進担当課長、石塚良明国際課長、森田孔二文化政策課長、
瀧下且元産業振興課長、石川淳観光交流課長

報道関係：2 人

傍聴者：2 人

事務局：影山伸枝担当課長、影山元紀副主幹、宮木広由、辻昌孝、外山裕太、藤谷佳澄（以上、企画課創造都市推進グループ）
鈴木三男文化政策課長補佐

1 開会

（事務局 影山元紀）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、第 2 回浜松市創造都市推進会議を開催します。本日は、過半数を超える全員の委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

次に、会議資料について確認いたします。

（事務局から配付資料確認）

それでは、ここからの進行は根本会長にお願いいたします。

（根本会長）

おはようございます。ただいまから第 2 回浜松市創造都市推進会議を開始します。次第にありますように、本日は審議事項、協議事項、報告事項が各 1 件ございます。

4 議事

（根本会長）

それでは第 1 号議案について、事務局から説明をお願いします。

（事務局文化政策課鈴木より配付した資料 1「浜松市創造都市推進会議・音楽専門部会の設置について」の説明）

（根本会長）

確認しますと、手続きとしては規約に基づき部会を設置することに支障はありません。部会の趣旨や、人選はフィックスしたものではないもののこのような領域の方をこれから

依頼すること、スケジュール等について、いかがでしょうか。

(桧森委員)

創造都市推進会議の議論と音楽専門部会の議論との関連性について、どのように相互乗り入れをされるのでしょうか。

(事務局 影山元紀)

推進会議の次回会議は10月に開催を想定しています。その間に専門部会の会議を2回ほどもちます。専門部会で議論されたことを推進会議に報告し、改めて全体の枠の中で議論いただきます。

(根本会長)

報告は、部会長が推進会議に出席されるというイメージでしょうか。

(事務局 影山元紀)

事務局で報告するイメージでしたが、必要に応じて部会長に出席いただくということもできます。

(根本会長)

できるだけ直接伺うほうが話は早いですが、どうしても都合がつかないときには事務局に手伝ってもらいたいと思います。また、次の推進会議でどさっと報告されるのではなく、専門部会の議事録のメモ程度でも推進会議メンバーにフィードバックいただければ、質疑の中身を深めることができます。

(根本会長)

そのほか特段の意見なければ、この案で部会を発足します。細かいメンバーの顔ぶれややりとりは、進めながら報告するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

(根本会長)

それでは、推進会議としては、この部会の発足を了承しました。ありがとうございました。

(根本会長)

続きまして、議事の2番目、協議事項であります「アクションプログラムの作成方針について」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局宮木より配布した資料2「アクションプログラムの作成方針について」資料3「浜松市を創造都市へと浜松市を創造都市へと牽引するプロジェクト」及び参考資料1「金沢市創造都市推進プログラム」参考資料2「浜松市創造都市アクションプログラム構成案」参考資料3「浜松市未来ビジョン(案)」に基づき説明)

(根本会長)

論点としては、作成方針、全体の枠組、運びが大事です。補足資料として、金沢の事例、浜松市の柱立てと今現在事務局でピックアップした取り組み事例が挙がっています。本日

は作成方針の大枠を中心に、それだけでなく具体的取り組みの中身も含めて議論いただきます。アクションプログラム自体はこれから作成するので、推進会議も二度三度と議論を重ねていくものです。委員の皆さんからご意見・ご質問をお伺いします。

(桧森委員)

2点伺います。

以前作成された「浜松市文化振興ビジョン」と「アクションプログラム」との関係はどうなりますか。「文化振興ビジョン」は終わったとして次にいくのでしょうか。

それから、補足資料に事業名と実施主体、それから行政の担当課が記載されていますが、行政の関与の度合いがそれぞれ違うと思います。民間が中心に行政が支えているものがあるれば、行政がほぼ主催者になってやっているものもあります。行政の関わり方を整理したほうがいいです。また、市民が行政と関係なくやっている活動も様々あります。そういうものがたくさんあるほうが創造都市に近づくと捉えるのであれば、市民の活動を誘発する、薄くていいが行政が支援するにはどうしたらいいかコメントをいただきたいと思います。

(事務局 影山元紀)

「文化振興ビジョン」は市の総合計画の下に複数あるプラン、ビジョン、構想の一つで、平成21年度からおおむね10年のビジョンです。こちらの内容も踏まえながら、他のプラン、ビジョン、構想と共通の部分に横串をさすようなイメージで今回のアクションプログラムを作成したいと考えています。

(桧森委員)

横串のさし方がとても大事です。通した横串についての理解を各担当の部課が共有するようお願いいたします。

(根本会長)

重ねて確認ですが、「文化振興ビジョン」は現行の行政施策として生きています。方針としては、文化振興ビジョンに限らず、部局ごとに持っている将来ビジョンや構想のどれかひとつの下に創造都市がぶらさがるということではなく、横串という言葉が出たように連携をきちんとやっていただきたいという意見であったかと思います。

今後、このアクションプログラムを固めていく中で、各事業がどの計画と関係しているのか、文言を入れるといいのではないのでしょうか。創造都市だけで独立した施策でないということが見えるといいですね。

(海野監事)

在住する者としては事業を知っているが、一歩引いて、外からみた場合、よく知られていないことがあります。併せて宣伝・プロモーションということもアクションプログラムの中に入れるべきです。

(根本会長)

イベントに限らず、事業をする上で有効な情報発信の手段を伴うべきということ、5本の柱のどれかということではなく、全体にかかる方針として考えてほしいと思います。

(根本会長)

それから、先ほど桧森委員から出た 2 番目の点です。行政がパートナーとして参加するあるいは主体的に参加する取り組みもあれば、まったく民だけで動いていることもたくさんあります。今回は民間の取り組みも当然含まれる訳で、その辺りをどのように記述するかということもご指摘いただいた課題かと思います。

(根本会長)

資料 3 に牽引するプロジェクトの事例がありますが、パッとみて (4) の柱「はままつのものづくりを原点とした創造産業の創出」が少ないような気がします。必ずしも 5 本の柱が同じボリュームでなくてもいいですが、浜松市の都市の発展の経緯を考えると、(4) の柱がもっと充実していいのではないのでしょうか。ポローニャや金沢の例を見ると、無理やり足並みを揃えるのではなく、浜松らしさをもっと表に出していいのではないかと思います。浜松は産業のプラットフォームであるデジタルサウンドプロセッシング、光技術、CAD・CAM などの基盤技術や非常に分厚く付加価値の高い製造業のノウハウを蓄積していて、その基盤の上に立って楽器産業は展開しています。

育てる人材として演奏家やクリエイターもありますが、浜松の独自性としては、幅広い文化を支えるプラットフォームの基礎技術が集積する世界でも有数の地であり、その点でのコラボをもっと推進していきますといったことが書けるといいなと個人的には思います。

(安形産業部長)

楽器も車も電気製品も組み込みソフトウェアは不可欠です。そこがないと新しい製品も難しい。一般にも分かりやすい「創造産業」の定義が必要と感じています。目標・指標を定めるにも、「創造産業って何?」「どこまで含めるのか?」という議論がないと、あやふやな感じがします。「創造文化産業」「創造産業」「文化産業」の違いなどの定義が必要という気がします。

(根本会長)

研究者や学会では「創造産業 (creative industry) とは何か」というのは、いくつかコンセンサスになりつつあるものがあります。それらを見ると、必ずしも文化・芸術だけでなく、基礎的なデジタル技術、組み込みプログラムなどいわゆる ICT 分野もクリエイティブに入っています。そのあたりを上手に情報発信できるアクションプログラムにしていきたいと思っています。

(桧森委員)

フロリダやランドリーの理論にこだわる必要はなく、浜松独自の定義をすればよいと思います。その時代その時代の最先端を取り入れて、楽器産業は進化してきました。戦後であればエレクトロニクス、現代では ICT 技術によって楽器は進化し、それが音楽の進化をもたらす循環になっています。浜松市における音楽産業の重要性について、ウェイトを高く考えた方がよいと思います。それが音楽文化の発展にも寄与するし、世界の音楽文化の発展に浜松市が貢献できる分野だと思っています。

(齋藤委員)

資料 3 は浜松市がやっている事業を主体として記載していますが、専門部会に期待するのは、ここに書かれていない民間レベルの事業。たとえば、メーカーから出た職人らの楽器工房のパンフレットを作った方もいます。また、楽器メーカーと文化をつなぐ例として

は、浜松には優秀な調律師もいます。専門部会にはメーカーの方も入りますし、文化振興財団からは楽器博物館館長やそういった民間の方と付き合いのある事業課長も出るので、いろいろな意見を出し、肉付けをお願いしたいと思います。

(根本会長)

まだまだ膨らませていい余地があります。個人的には私はここに勤めて初めてまちなかを歩いてびっくりしたのは、調律の道具を売る専門店があることで、感動しました。

(空屋委員)

「楽器の街から音楽の街へ」という言葉が出たのは、30年くらい前にあるイベントでコピーライターが使ったのが始まりだと記憶しています。いい悪いは別として、これからの都市を創造していく上でよく使われる象徴的な言葉です。このように市民レベルの分かりやすい言葉に集約できるような内容でまとめると市民からの支持が得やすいと思います。オペラとかオーケストラとかレベルの高いものの提供ばかりでなく、市民一人ひとりが何か一楽器できるような提言ができると、市民レベルでの向上が図られるのではないかと、そんなことを期待したいと思います。

(根本会長)

浜松初で全国、世界に広がっている文化があります。音楽スクールのノウハウがあるし、指導者は浜松に学びに来ます。カラオケのデジタル配信の MIDI 技術は浜松が発祥です。浜松はカラオケ文化を発信した本拠地であると胸を張ってもいい。ハイカルチャーだけでなく、ここで育まれて技術や人材、ノウハウが世界に広まった文化があることを、大いにアピールすべきです。

(桧森委員)

情報発信の点では、海外の創造都市は自治体のホームページとは別におしゃれに外国語で発信しています。浜松市でもそういうホームページを作ってはどうかと思います。

(根本会長)

今日はこのような形で枠組とサンプルが示されました。推進会議のメンバーは「そうだ、これがあった」とお気づきのことがあれば、事務局にお知らせいただくようお願いします。

(そのほか特段の意見がなかったため、協議を終了した)

(根本会長)

それでは、議事の3番目、報告事項として「創造都市施策推進調査研究」について、事務局からお願いします。

(事務局影山元紀より配付した資料4「創造都市施策推進調査研究について」の報告)

(根本会長)

何か質問等はございますか。

トップレベルで交流が進み、創造都市推進のためには何よりです。一方で、コンテンツを我々がしっかり固めていかなければいけないと思います。

(そのほか特段の質問・意見がなかったため、報告を終了した)

6 閉会

(根本会長)

本日の案件は以上でございます。それでは、浜松市創造都市推進会議の第 2 回会議をこれで終了いたします。